

学部：看護学部

学科：看護学科

役職：教授

氏名：石久保雅浩



最終学歴・学位等

最終学歴：群馬大学大学院保健学研究科

学位：博士（保健学）

免許：看護師免許・救急救命士免許・看護管理者（ファーストレベル）

資格：日本医師会医療安全推進者資格

所属学会等

日本公衆衛生学会

日本健康教育学会

日本看護研究学会

日本運動疫学会

日本農村医学会

主な職歴

平成 3（1991）年 4 月～平成 15（2003）年 3 月

埼玉医科大学病院

平成 15（2003）年 4 月～平成 24（2012）年 3 月

毛呂病院看護専門学校

平成 24（2012）年 5 月～平成 25（2013）年 3 月

群馬大学 TA

平成 25(2013)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月 31 日

上武大学看護学部（講師）

平成 31(2019)年 4 月～令和 6（2024）年 3 月

上武大学看護学部（准教授）

令和 6（2024）年 4 月～現在に至る

上武大学看護学部（教授）

担当授業科目（2026 年度/令和 8 年度）

認知症の理解（1 年前期、科目責任者）

看護技術総合演習（4 年前期、科目分担者、旧カリ）

高齢者看護学方法論（2 年後期、科目責任者）

研究理論（3 年後期、科目責任者）

高齢者看護学概論（1 年後期、科目責任者）

リハビリテーション看護（4 年後期、科目責任者）

高齢者看護学実習（3 年前期、科目責任者）

看護研究（4 年通年、科目分担者）

専門・研究領域

専門：高齢者看護学 地域健康推進学

研究領域：ヘルスプロモーション、健康教育

主な論文・著作

主要論文

1. 石久保雅浩, 鶴沢陽子: 看護記録の変遷—明治6年から大正4年看護婦規則制定まで—, 第24回日本看護研究学会雑誌, 21(3), 390, 1998.
2. 清水睦美, 石久保雅浩, 武藤光代他: 寛骨臼回転骨切り術後の安楽な肢位に対しての一考察—高分子吸収材を用いた枕を試用して—, 第27回日本股関節学会, 187, 2000.
3. 佐々木真紀, 石久保雅浩, 武藤光代他: 頸椎術後患者の安静保持より起こる苦痛緩和への一考察—椎弓形成術後の安楽枕を試みて—, 整形外科看護, 6(3), 273-278, 2001.
4. 北村昇子, 石久保雅浩, 武藤光代他: 人工股関節全置換術後に起こりえる深部静脈血栓症の予防に対する一考察, 第28回日本股関節学会, 209, 2001.
5. 紫藤順子, 石久保雅浩, 武藤光代他: 症状排泄の看護についての患者の満足度—満足度・不安・羞恥心の関係について—, 日本看護学会抄録集成人看護II, 33, 167, 2002.
6. 深津晃久, 石久保雅浩, 武藤光代他: 股関節術後患者のADL向上のための一考察—カラフルアイアンハンドの使用を試みて—, Hip Joint, 29, 53-55, 2002.
7. 田島久美子, 石久保雅浩, 武藤光代他: 改良型外転枕(PAP)を使用して—安楽について再検討, Hip Joint, 29, 58-60, 2003.
8. 八木健太, 石久保雅浩, 武藤光代他, 股関節手術後における体重増加について, Hip Joint, 30, 25-27, 2004.
9. 石久保雅浩, 吉田亨: 家庭生活における身体活動量の意義—文献 review から—, 第21回日本健康教育学会誌, 20, 72, 2012.
10. 石久保雅浩, 吉田亨: 3軸加速度計で測定した身体活動量および生活活動量研究の動向, 上武大学紀要, 9, 1-15, 2015
11. M.Ishikubo, T.Yoshida. Relationships between daily life behaviors and physical activity measured using a triaxial accelerometer in elderly community-dwelling Japanese individuals. Journal of Rural Medicine. 15(1): 8-15, 2020.

主要著作・総説

1. 箱石文恵, 石久保雅浩, 岩沢純子, 大腿骨頸部骨折患者の看護, 7(18): 24-37, ナーシングカレッジ, 2003.
2. 箱石文恵, 石久保雅浩, 岩沢純子, 第6章運動器・血液・栄養・代謝, 疾患別看護過程セミナー統合改訂版, 588-601, 医学芸術社, 2006.
3. 瀧山文恵, 石久保雅浩, 岩沢純子, 運動器, 神経・筋, 疾患別看護過程セミナー下巻, 76-89, サイオ出版, 2018.

【文部科学省科学研究費：研究代表者のみ】

1. 研究種目：基盤C（平成27（2015）年度-30（2018）年度）

研究課題名：前期高齢者の身体活動量とその生活習慣要因—生活活動量に焦点を当てて—